

第1章 平成24年度山口大学構内遺跡の調査

第1節 平成24年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡として県内でも著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物が出土する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と月待山遺跡内にまたがって位置している。

このような環境の下、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財を保護・調査・研究・活用する施設として、昭和53年(1978)に職員が配置されて以来、その重責を担い続けている。当館の平成24年度時の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画の確認を行った後、文化財保護法の諸手続の下、山口大学各構内が位置する地方公共団体(山口県および各市)の指導により、埋蔵文化財保護の立場から本発掘・予備発掘・立会の3種の方法で調査を厳密に行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設(職員宿舍等)敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、出来る限り工事掘削時に資料館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する当館の平成24年度の職員配置は、専任教員2名と教務補佐員1名、事務補佐員1名である。

上記の調査の結果で埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、工事計画、工事設計の変更等で現状保存が可能であるかどうか

表1 平成24年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m ²)	調査期間	本書掲載頁
本発掘	図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事	吉田	M-16	172	9月20日～11月14日	10-88
	教育学部附属光学校下水道接続工事	光		125.4	5月21日～8月16日	116-139
予備発掘	産業動物実験施設新営工事	吉田	S・T-10	45	7月2日～7月11日	5-9
	榎野寮新営工事	吉田	O-21・22 P-22	48	11月16日～11月28日	89-94
	第1学生食堂増築工事	吉田	I-19・20、J-20	66.1	2月4日～3月4日	95-103
立会	陸上競技場トラック排水溝改修工事	吉田	D-17～19 E-17・19 F-16～19 G-16～	495	12月26日	104-106
	人文・理学部管理棟EV設置工事	吉田	M-20	42.75	9月21日	107
	農場本館事務室等改修機械設備工事	吉田	R-13 S-13	27	11月16・20日	108
	図書館改修その他工事(廃棄物プール設置)	吉田	K-10	25	1月21日	109
	国際交流会館1号館引込給水管改修工事	吉田	M・N-22	15	7月4日	110
	教育学部附属幼稚園遊具設置工事	白石		0.35	10月23日	111
	教育学部附属幼稚園園舎テラス取設工事	白石		7.9	3月13日	112
	教育学部附属山口中学校看板表示設置工事	白石		0.6	8月24日	113
	教育学部附属山口中学校テニスコート防球ネット嵩上げ工事	白石		4.8	3月27日	114
	教育学部附属山口中学校武道場新営植物移植工事	白石		3	3月12日	115
	教育学部附属光学校下水道接続工事	光		889	8月7日～11月20日 12月7日	140-203

について厳密な協議を行い、保存方法を選定している。また、調査成果については地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報(年報)を刊行している。

上記の調査体制の下、平成24年度に当館が実施した大学構内における埋蔵文化財の調査は、表1の通り、本発掘調査2件、予備発掘調査3件、立会調査11件の計16件であった。

吉田構内(本部、人文・教育・経済・理・農の各学部:山口市吉田1677-1、教育学部附属養護学校:同吉田3003所在)

例年通り、平成24年度の埋蔵文化財調査も吉田構内に集中し、その件数は本発掘調査1件、予備発掘調査3件、立会調査5件を数える。

図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事に伴う発掘調査では、総合図書館2号館東に増設される3号館予定地を対象に本発掘調査を実施した。その結果、調査区内のほぼ全域が埋没河川である事が確認され、河川堆積土中から大量の弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、貿易陶磁



写真1 吉田構内航空写真(南東から)



写真2 白石構内(教育学部附属山口幼稚園・小学校)航空写真(東から)



写真3 白石構内(教育学部附属山口中学校)航空写真(南から)



図1 山口大学吉田・白石構内位置図

器などが出土した。遺物の主体は弥生時代であるが、古墳時代のものも相当数含まれている。河川は長期にわたり機能していたようで、河底に鎌倉時代の遺物が混ざる事から、豪雨の際の出水などで繰り返し堆積土が攪拌されたものと推定される。なお、これらの遺物の由来に関しては、当時の居住域である調査区北方の丘陵上から投棄されたものと推定している。また、埋没河川を覆う遺物包含層からも古代を中心とする多量の遺物が出土した。中でも表裏金具が結合した銅製銚帯具丸軔は県内でも稀少な資料である。

予備発掘調査は、産業動物実験施設新営、榎野寮新営、第1学生食堂増築の各工事に伴い実施した。前二者の工事予定地では、削平および攪乱のため遺構が遺存している状態にないことが確認されたが、遺跡保存公園に隣接する第1学生食堂増築予定地では、攪乱が著しいものの埋没河川と少数のピットを確認したため、翌年度の工事時に立会調査を実施する事となった。

立会調査では、埋蔵文化財に支障が生じた工事は少なかったものの、陸上競技場トラック排水溝改修工事に伴う立会調査では、所属時期は不明であるが埋没河川と複数の溝を検出した。

白石構内 (教育学部附属山口幼稚園: 山口市白石三丁目1-2、同山口小学校: 白石三丁目1-1、同山口中学校: 白石一丁目9-1所在)

立会調査5件を実施した。このうち教育学部附山口中学校武道場新営植物移植工事に伴う立会調査では、埋没河川または谷の埋土の可能性のある土層を確認した。立会調査地の北隣では平成25年に武道場新営に伴う予備発掘調査が予定されており、地下の基礎情報を獲得する事ができた。

小串構内 (医学部、同付属病院: 宇部市南小串1丁目1-1)

土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。

常盤構内 (工学部: 宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舍: 同上野中町2658-3所在)

土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。

光構内 (教育学部附属光小学校、同光中学校: 光市室積8丁目4番1号)

教育学部附属光学校下水道接続工事に伴い本発掘調査1件と立会調査1件を実施した。本発掘調査では、3枚の遺構面に溝、土壌、ピットなど多くの遺構が分布することを確認した。遺物としては、少数ではあるが縄文時代後晩期の土器や、古墳時代後期と見られる竈形土器、甕がまとまって出土したほか、韓式系軟質土器、陶質土器も出土した。引き続き実施した立会調査においても、敷地の広範囲においてピットや落ち込み等を検出し、縄文時代の包含層が形成されている可能性がある地点も確認した。また、検出した包含層の遺物含有量は多く、縄文時代から古墳時代までの遺物が混在するが、古墳時代中期から後期が主体である事を確認した。これらの遺物のうち、注目されるのは韓式系軟質土器、韓式系瓦質土器、陶質土器である。韓式系軟質土器には甕、鉢、甌、韓式系瓦質土器には、坏もしくは碗、鍋、陶質土器には壺もしくは甕、鉢、高坏、があり、分布状況から一時期に複数地点で使用・廃棄されていたと考えられることから、この地に朝鮮半島から来た渡来人が居住していたかもしくは立ち寄っていた可能性がきわめて高いと推定される。室積湾周辺が古柳井水道周辺と同様、古墳時代における海上交通上の重要な拠点であった根拠となる資料群である。この他、弥生時代終末期から古墳時代初頭の東海系台付甕は搬入品と見られ、県内では初確認であり大きな成果と言える。

平成24年度は、開発工事の計画はさほど多くなかったが、本発掘および予備発掘調査による対応が必要な事案が多く、開発面積も広がったこともあり、現場対応に多くの時間を割く事となった。その一方で、地域の考古学研究を促進する上で貴重な成果を得た1年であった。また、当該年度の出土遺物は膨大で、整理作業および遺物実測は平成25年度から平成27年度の3ヶ年が必要であった。



図2 小串・常盤構内位置図



写真4 小串構内航空写真(南東から)



写真5 常盤構内航空写真(南から)

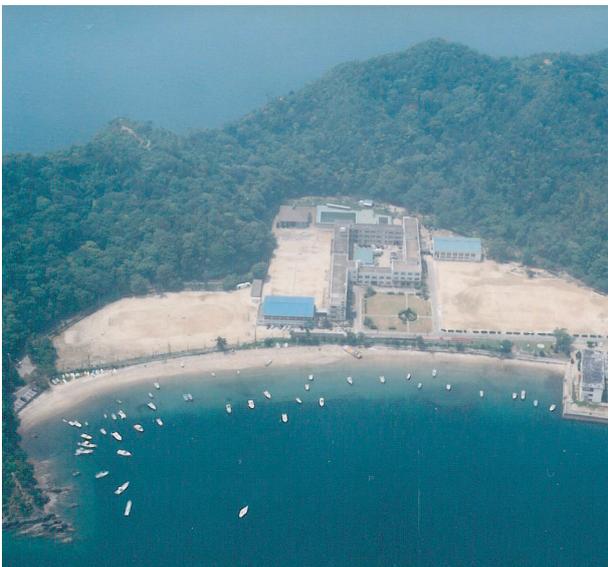


写真6 光構内航空写真(北東から)



図3 光構内位置図